

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	修了年度	2022 年度
氏名	内村 真由美	指導教員 (主査)	小泉 仁子 (安齋 ひとみ)

論文題目	COVID-19 流行下の周産期母子医療センターにおける 助産師のワーク・エンゲージメントに関連する要因 — レジリエンスに着目して
------	---

本文概要	
<p><b>【目的】</b> 本研究は、COVID-19 流行下の周産期母子医療センターにおいて、勤務継続する助産師のワーク・エンゲージメント (Work engagement, 以下 WE) に関連した要因は何であったのか、レジリエンスに焦点を当て明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b> 全国の総合周産期母子医療センター43 箇所、地域周産期母子医療センター84 箇所、合わせて周産期母子医療センター127 箇所の、2515 名の助産師に WE {日本語版ユトレヒト・ワークエンゲイジメント尺度 9 項目 (UWES-J)}、レジリエンス (二次元レジリエンス要因尺度: BRS)、COVID-19 流行下のストレス要因・職務継続要因について調査を行った。本研究の研究デザインは混合研究法 (Mixed Methods Research) である。調査期間は 2021 年 9 月 1 日～2022 年 1 月 31 日である。UWES-J を目的変数とし、相関や統計的に有意な差の得られた説明変数を投入し重回帰分析を行った。</p> <p><b>【結果】</b> 1033 名 (回収率 41.1%) より回答を得て、有効回答数 984 (有効回収率 95.3%) を統計解析の対象とした。UWES-J の平均得点は 2.95 (SD 1.04) であった。獲得的レジリエンス要因の [問題解決志向] は UWES-J 全ての項目に対して正の相関がみられた。COVID-19 流行下におけるストレス要因は『プライベートの制限』など 30 のカテゴリー、職務継続要因は『経済的理由含め生活のため』など 22 のカテゴリーが形成された。統計的に有意な差が確認された説明変数 17 項目により重回帰分析を行い最終的に 12 項目の説明変数によるモデルが明らかになった。WE に対してプラスの要因となったのは年齢、職務継続要因の『助産師の仕事が好き』やストレス要因の『規制・制約を受ける患者への共感』、獲得的レジリエンス要因の [問題解決志向] などであった。</p> <p><b>【考察】</b> 資質的レジリエンス要因は生得的な要因とされているが、獲得的レジリエンス要因との相関関係より、獲得的レジリエンス要因の [問題解決志向] や [他者心理の理解] 資質的レジリエンス要因に相互に正の影響があると考えられる。COVID-19 患者の受け入れの有無で助産師の WE に統計的に有意な差はなかった。そして、COVID-19 患者を受け入れた部署 (病棟) の助産師の獲得的レジリエンス要因の [問題解決志向] が統計的に有意に高かったことより、COVID-19 患者受け入れという困難な状況下で、助産師は日々の助産・看護ケアに達成感を持っていたと考える。管理として、助産師の [問題解決志向] を高める取り組みが必要とされる。</p> <p><b>【結論】</b> COVID-19 のような新規感染症流行時には、獲得的レジリエンス要因の [問題解決志向] が重要であることが示唆された。COVID-19 流行下の困難な状況においても、助産・母子の看護を担う助産師は獲得的レジリエンスを発揮し、WE を維持していたことが示唆された。</p> <p><b>【キーワード】</b> COVID-19、助産師、ワーク・エンゲージメント、レジリエンス、マネジメント</p>	